

第41回土門拳賞受賞作品展 北島敬三

UNTITLED RECORDS



《飯館村 福島県 2011年10月13日》

2022

10.20

[Thu]

2023

1.15

[Sun]

Japanese Faces

— 希少プリントでたどる、日本の^{かお}貌 —



PHOTOGRAPH BY
DOMON-KEN
31, AKASHI-CHO, CHUO-KU, TOKYO

《岡本太郎》 / 希少プリントの裏面に押された土門拳のスタンプ

古寺巡礼

Autumn
Collection

午前9時〜午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料／一般700円 高校生350円 中学生以下無料
12月〜毎週月曜（祝日の場合は翌日）、
年末年始（12月29日〜1月3日）休館

土門拳記念館
Ken Domon Museum of Photography

山形県酒田市飯森山2丁目13（飯森山公園内）
TEL 0234-31-0028 <http://www.domonken-kinenkan.jp/>

3. 11以後の自分を問う



KEIZO
KITAJIMA
北島 敬三

土門拳賞受賞のことば

「UNTITLED RECORDS」は、あまり大声にならない自分の足元で展開してきたシリーズだったので、受賞の知らせをいただいた時には少し驚いた。

東日本大震災以降とくに、見慣れた風景が翌日には全く別のものになってしまうという経験を、私たちは何度も繰り返してきた。自分が属している社会の諸矛盾が、噴出露呈するのを見てきた。私には、東日本大震災からオリンピックそしてパンデミックへと至ったこの10年が、1923年の関東大震災から日中戦争、幻のオリンピックを経て太平洋戦争に至る時代と重複し、極東の軍事的緊張やウクライナ侵攻など言うまでもなく、より危機的な時代に進んでいるように見える。

このシリーズには、そうした時代において、ある写真家の個人的な活動を善かれあしかれ丸ごと書簡化し、向後へ送信できればという企図があった。しかし今現在、「震災以後の時間をお前はどろ過したのか」じつは「すでに取り返しのつかない10年を過ごしてしまったのではないか」という焦りのようなものをより強く感じている。もちろん、こうした感覚をお持ちの方は私だけではないはずだ。しかし、それは希望か？

この度「UNTITLED RECORDS」に土門拳賞を授与して下さった選考委員の方々に、心より感謝申し上げます。

(「毎日新聞」2022年3月21日号より抜粋)

土門拳賞とは

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年に毎日新聞社が設立。その年に作品(写真集、展覧会など)を発表し、優れた成果をあげた写真家が対象となり、受賞作品は土門拳記念館にパーマネントコレクションされます。

北島敬三氏は、全20巻からなる連続写真集「UNTITLED RECORDS」によって今回の土門拳賞を受賞。1999年から現在に至る



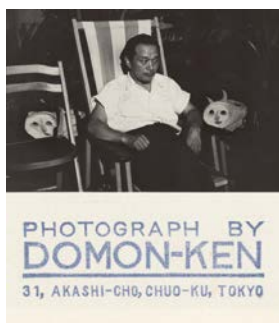
1		
2	3	
4		

- 1 《静岡県川根本町 2016》
- 2 《北海道網走市 2020》
- 3 《青森県青森市 2014》
- 4 《鹿児島県奄美市 2018》

までの写真320点を収めたこのシリーズでは、北海道から沖縄まで足を運び、東日本大震災の被災地を含む日本各地の“遺棄されたように見える”風景を撮影。一貫した視点と姿勢で撮影・選択されていることが見えてくる写真からは、日本中が被災地であるかのような錯覚すら覚えさせられます。21世紀の日本列島を急速に浸潤してゆく、日本の風景の解体する様を提示し続ける姿勢が高く評価され、今回の受賞に至りました。

Japanese Faces

— 希少プリントでたどる、日本の貌 —



1	2
---	---

- 1 《縄文時代晩期の土偶頭部》
- 2 《岡本太郎》 / 希少プリントの裏面に押された土門拳のスタンプ

土門拳が撮影した「顔」の代表作といえば、昭和の著名人たちのポートレート収めた『風貌』。ですが、本展では、人物から仏像、あるいは縄文土器まで、土門のレンズが捉えた様々な被写体を“日本の貌”という視点のもとに展示いたします。また、近年寄贈された生前の土門拳本人が監修したと思われる『風貌』シリーズのプリント＝「希少プリント」を、多数初公開いたします。“オリジナルの写真”が放つ力をぜひ味わってください。

新型コロナウイルス感染症対策を実施しております。

Autumn Collection

古寺巡礼

《室生寺金堂未神(十一神将のうち)頭部》 / 1976年



春(スプリング)、夏(サマー)、と展開してきた今年の古寺巡礼シリーズ。今回のオータム・コレクションは、古寺の雰囲気ゆたかり浸るのに最適のシーズンかもしれません。容姿端麗な寺院から、もの想いにふけていそうな表情の仏像まで、さまざまな古寺の姿をお楽しみください。

会期中のイベント

土門拳賞受賞作家
北島敬三氏による
ギャラリートーク
10/22(土) 14:00～

第18回
「わたしのこの一枚」
写真展
10/29(土)～11/14(月)

秋のミュージアム
コンサート
10/29(土) 16:00～
出演: 千田岩城 / マリンバ

学芸員による
ギャラリートーク
11/12(土) 14:00～
12/3(土) 14:00～

今後の状況に応じて、展覧会やイベントに関する予定の変更が発生した場合は、当館ウェブサイトなどで随時お知らせいたします。

第41回土門拳賞受賞作品展
北島敬三
「UNTITLED RECORDS」



《飯館村 福島県 2011年10月13日》

リアリズム写真を確立した巨匠・土門拳の業績をたたえ、1981年に毎日新聞社が設立。その年に作品（写真集、展覧会など）を発表し、優れた成果をあげた写真家が対象となり、受賞作品は土門拳記念館にパーマネントコレクションされます。

北島敬三氏は、全20巻からなる連続写真集『UNTITLED RECORDS』によって今回の土門拳賞を受賞。1999年から現在に至るまでの写真320点を収めたこのシリーズでは、北海道から沖縄まで足を運び、東日本大震災の被災地を含む日本各地の“遺棄されたように見える”風景を撮影。一貫した視点と姿勢で撮影・選択されていることが見えてくる写真からは、日本中が被災地であるかのような錯覚すら覚えさせられます。21世紀の日本列島を急速に浸潤してゆく、日本の風景の解体する様を提示し続ける姿勢が高く評価され、今回の受賞に至りました。



北島敬三

土門拳賞受賞のことば
3.11以後の自分を問う

「UNTITLED RECORDS」は、あまり大声にならないよう自分の足元で展開してきたシリーズだったので、受賞の知らせをいただいた時には少し驚いた。

東日本大震災以降とくに、見慣れた風景が翌日には全く別のものになってしまうという経験を、私たちは何度も繰り返してきた。自分が属している社会の諸矛盾が、噴出露呈するのを見てきた。私には、東日本大震災からオリンピックそしてパンデミックへと至ったこの10年が、1923年の関東大震災から日中戦争、幻のオリンピックを経て太平洋戦争に至る時代と重複し、極東の軍事的緊張やウクライナ侵攻などは言うまでもなく、より危機的な時代に進んでいるように見える。

このシリーズには、そうした時代において、ある写真家の個人的な活動を善かれあしかれ丸ごと書簡化し、向後へ送信できればという企図があった。しかし今現在、「震災以後の時間をお前はどうか過ごしたのか」じつは「すでに繰り返しのつかない10年を過ごしてしまったのではないか」という焦りのようなものをより強く感じている。もちろん、こうした感覚をお持ちの方は私だけではないはずだ。しかし、それは希望か？

この度「UNTITLED RECORDS」に土門拳賞を授与してくださった選考委員の方々に、心より感謝申し上げます。

（「毎日新聞」2022年3月21日号より抜粋）

2022年10月20日〔木〕→ 2023年1月15日〔日〕

9:00～17:00（入館は16:30まで）

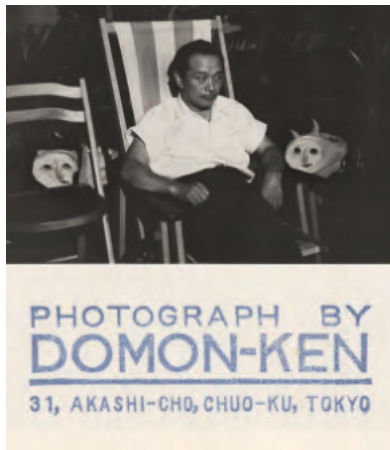
入館料 一般700円 / 高校生350円 / 中学生以下無料

休館日 10～11月は無休 / 12～3月は月曜休館（祝日の場合は開館し、翌火曜に休館） / 年末年始（12月29日〔木〕～1月3日〔火〕）

同時開催

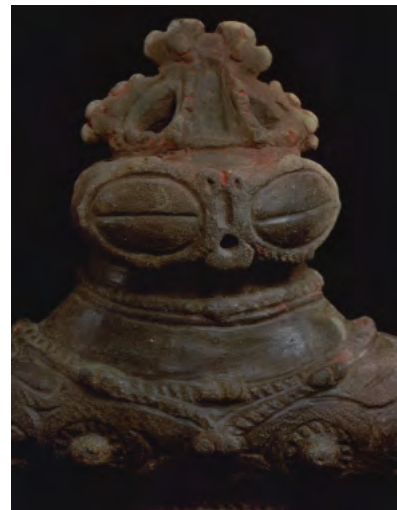
Japanese Faces

ー希少プリントでたどる、日本の貌ー



上：《岡本太郎》

下：希少プリントの裏面に押された
土門拳のスタンプ

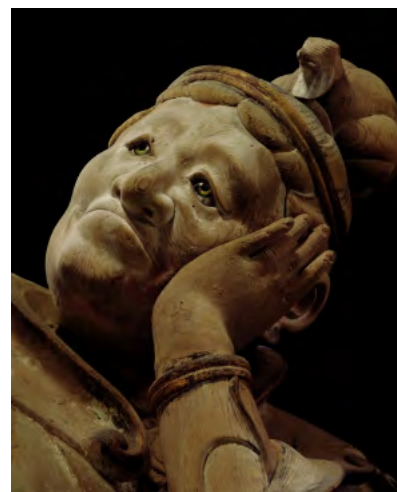


《縄文時代晩期の土偶頭部》

土門拳が撮影した「顔」の代表作といえば、昭和の著名人たちのポートレートを収めた『風貌』。ですが、本展では、人物から仏像、あるいは古美術品まで、土門のレンズが捉えた様々な被写体を“日本の貌”という視点のもとに展示いたします。また、近年寄贈された生前の土門拳本人が監修したと思われる『風貌』シリーズのプリント＝「希少プリント」を、多数初公開いたします。“オリジナルの写真”が放つ力をぜひ味わってください。

古寺巡礼 Autumn Collection

春（スプリング）、夏（サマー）、と展開してきた今年の古寺巡礼シリーズ。今回のオータム・コレクションは、古寺の雰囲気にとろけたり浸るのに最適のシーズンかもしれません。容姿端麗な寺院から、もの想いにふけていそうな表情の仏像まで、さまざまな古寺の姿をお楽しみください。



室生寺金堂未神(十二神将のうち)頭部 / 1976年

関連イベント

- 土門拳賞受賞作家 北島敬三氏によるギャラリートーク 10/22（土）14:00～
- 第18回「わたしのこの一枚」写真展 10/29（土）～11/14（月）
- 秋のミュージアムコンサート 10/29（土）16:00～ 出演：千田岩城 / マリンバ
- 学芸員によるギャラリートーク 11/12（土）14:00～ / 12/3（土）14:00～